



稲作情報



JA秋田ふるさと 営農経済部 米穀課 ☎ 23-6556

各営農センター

金沢 ☎ 37-2124 大雄 ☎ 52-3665 横手 ☎ 32-8220 増田 ☎ 45-2035

平鹿 ☎ 24-3110 十文字 ☎ 44-3101 大森 ☎ 26-4155 雄物川 ☎ 22-2266

秋田県農業共済組合横手市支所 ☎ 32-4150

農産課(農作・畑作・損防) ☎ 32-4404 家畜果樹園芸課(家畜・果樹・園芸) ☎ 32-4407

建物農機具課(建物・農機具) ☎ 32-4119

秋田県平鹿地域振興局 農林部 農業振興普及課 ☎ 32-1805

横手市農林部：農業振興課 ☎ 32-2112・32-2113



適切な雑草対策とこまめな「水管理」で分けつ促進を!!

今年の田植え作業は5月14日頃から始まり、5月末までにはほぼ植え終わりました。田植時は好天に恵まれたため初期生育は順調ですが、高温の日が続いたため雑草の生育も旺盛です。秋田県病害虫防除所発表の予察情報では、斑点米カメムシ類の発生時期は早く、発生量は多いと予想されます。水田除草剤を適切に使用しホタルイ類やノビエの発生を抑えるとともに、農道・畦畔や休耕田の除草を行ってください。

1. 田植後の管理ポイント

◆分けつ初期・中期（6月上～中旬）の水管理

初期生育が遅れている圃場では、分けつの発生を促進するため「浅水管理」とし、水温と地温を高めながら気温日較差を大きくします。水田への入水は、水温の低い早朝に短時間で行いましょう。

◆分けつ期（田植え後～6月中旬）の追肥

○生育不足、葉色低下時のムラ直しはチッソ成分1kg/10a程度で追肥しましょう。
○近年、異常気象による品質・収量低下が目立っています。特に高温により稲体が凋落する傾向が大きいため、異常気象に負けない強い稲体を作るため、PK化成やケイ酸カリの追肥を実施しましょう。散布量は20kg/10aとし、散布時期は6月25日前後です。

◆有効茎決定期（6月下旬、8.5葉期頃）の水管理

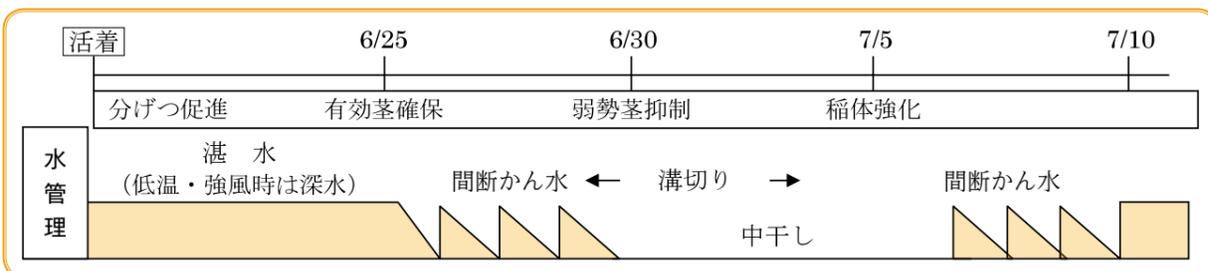
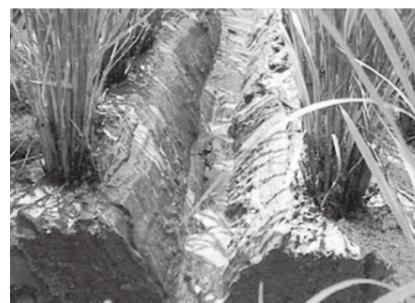
分けつ盛期には、水温・地温の上昇によってガスが発生し、根腐れの原因になります。曇天日か夜間の落水でガス抜きを行い、根の健全化に努めましょう。

6月20日～25日頃から有効茎決定期に入ります。この時期は強い茎だけでなく弱い茎も発生し始めますので、**中干しまたは深水処理**によって弱い茎の分けつを抑制し、太い茎を主体とした稲株を作ることが大切です。

◆中干しによる分けつ抑制

目標茎数の80%程度確保（70株植で1株20本程度）したら徐々に中干し（時期：6月下旬～7月上旬）を開始します。また、排水不良田や異常還元田では中干しに先立って、溝切りして排水を促します。

中干しの期間は7日～10日くらいとし、歩くと軽く足跡がつく程度とします。中干し終了後は間断かん水とし、土壌を酸化的条件に保ち根の伸長を促進させます。



2. 水田雑草対策（カメムシ防除は、雑草防除から!）

ホタルイやヒエが残草すると圃場内がアカスジカスミカメの産卵・繁殖場所となります。初中期剤の効果が不十分で残草が見られたら、雑草防除（中後期剤散布）を実施しましょう。

① 適期処理：残草している雑草の種類を見極め、適正薬剤を適期に処理することが重要。

② 使用方法

***湛水処理の場合**、湛水状態（水深3～5cm程度）を確保し処理後3～4日間は足し水をしないうこと。その間、田面が露出しないことが重要。また、散布後7日間は落水かけ流しをしないこと。

***落水処理の場合**、落水状態かできるだけ浅水状態とし、処理後2日以内に降雨があると効果が劣るので、好天の続く時に処理すること。（深水は効果が劣る）

*落水処理の場合でも、**水口と尻水口はしっかり止めて薬剤散布**をすること。

◎除草剤名と使用上の注意事項

除草剤名	成分数	使用時期	ノビエ	コナギ	ホタルイ	オモダカ	クログワイ	ヒルムシロ	使用上の注意
ヒエクリーン粒剤	1	移植後15日～(ノビエ4.0葉まで)	◎	×	×	×	×	×	湛水使用、土壌処理効果
クリンチャー粒剤	1	移植後7日～(ノビエ4.0葉まで)	◎	×	×	×	×	×	湛水使用
クリンチャーEW	1	移植後20日～(ノビエ6.0葉まで)	◎	×	×	×	×	×	落水使用、展着剤加用
マメットSM粒剤	3	移植後15～30日(ノビエ3.5葉まで)	◎	◎	○	○	×	×	高温時注意、湛水使用
フォローアップ粒剤	2	移植後20日～(ノビエ5.0葉まで)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	漏水田避ける 高温時注意、湛水使用
ワイドパワー粒剤	2	移植後20日～(ノビエ5.0葉まで)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	漏水田避ける 高温時注意、湛水使用
ヒエクリーンバサグラン粒剤	2	移植後15日～(ノビエ4.0葉まで)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	浅水状態で均一散布
クリンチャーバスME液剤	2	移植後15日～(ノビエ5.0葉まで)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	落水使用
ワイドアタックSC乳剤	1	移植後20日～(ノビエ5.0葉まで)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	落水使用
アトトリ粒剤	1	移植後20日～(ノビエ4.0葉まで)	◎	×	×	◎	◎	×	高温時注意、湛水使用
アンカーマンDF	2	移植後14日～(ノビエ5葉期まで)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	浅水または落水使用
バサグラン粒剤・液剤	1	移植後15日～55日	×	◎	◎	◎	◎	◎	浅水または落水散布
モゲトン粒剤	1	藻類・表層剥離発生時							湛水使用

除草効果 極大；◎ 大；○ 小～無；×

*散布時注意：散布時に気温が30℃以上では、葉害の発生する恐れがあります。

*表層剥離・アオミドロ等の発生圃場では、地温や水温が上昇せず生育を抑制します。雨の日の水の入れ替えをしながら、必要に応じてモゲトン粒剤の散布を実施して下さい。

中後期剤は効果が見え始めるのに2週間程かかります。



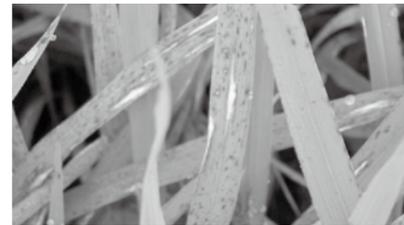
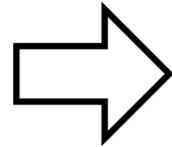
3. いもち病対策

《葉いもち予防対策》

- ◆補植用の余り苗は葉いもちの発生源・伝染源になります。至急土中へ埋没処分して下さい。
- ◆畦畔に上げたままのものや、裏返しにした苗でも発生源となります。
 - *オリゼメート粒剤の散布適期は、6月15日頃（6月12日～18日）です。（箱処理薬剤(D r .オリゼ箱粒剤等)や、側条オリゼメート顆粒水和剤を使用していない場合)
 - *2～3kg/10aを湛水状態で田面に均一に散布し、散布後は薬剤が土壤に吸着するように4日～5日間水がなくなるまで入水しないこと。散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。



取置苗を放置すると



いもち病の伝染源となる

4. フタオビコヤガ（イネアオムシ）対策

育苗期間中の発生は、ほとんど見られませんでした。

箱処理剤にフェルテラ剤やスピノ剤を使用しなかった圃場は、今後第2・第3世代幼虫による被害も予想されます。風通しの悪い圃場や街灯に近い圃場、多肥による葉色の濃い水田では発生しやすい条件となりますので、圃場を良く観察しアオムシの発生が見られたら早めに薬剤散布すること。

- *防除時期 被害初期に散布、葉先がカスリ状となる。
- *薬剤名 トレボン粉剤DL、パダン粉剤DL …… 3kg/10a

5. カメムシ対策

斑点米発生の原因となるカメムシ類は、農道・畦畔・排水路の側面・休耕田等のイネ科雑草や牧草の穂・実などを吸汁して繁殖・増殖します。特にアカスジカスミカメはイネ科雑草の穂に産卵しますので、増殖を防ぐために定期的に畦畔の草刈と休耕田の防除等を実施して下さい。また、防除しただけでは薬剤の効果も切れた後、再びカメムシの繁殖場所となりますので、防除後は必ず草刈も行うことが重要です。

草刈りの体系は下表の通りとなります。1回目の本田防除後畦畔・農道・水路法面の草刈りを実施し、カメムシの生息する場所をなくしてカメムシ密度抑制を図ります。草刈り期間は薬剤散布直後から1週間以内となりますので期間内に実施してください。

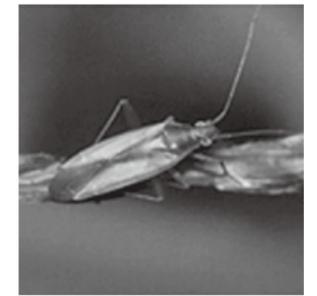
時 期	6 月			7 月			8 月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
本 田	雑草防除（ヒエ・ホタルイを繁茂させない）						出 穂	1 回目防除 出穂10日後頃	
農道・畦畔 水路法面	6月上旬から出穂10日前まで イネ科雑草が穂をつける前に実施する 地域一斉草刈2～3回						草刈禁止	カメムシ防除後 アカスジの生息地を なくすため 薬剤散布後草刈	
休 耕 田 等	防除・草刈2～3回						草刈禁止		

アカスジカスミカメの生態

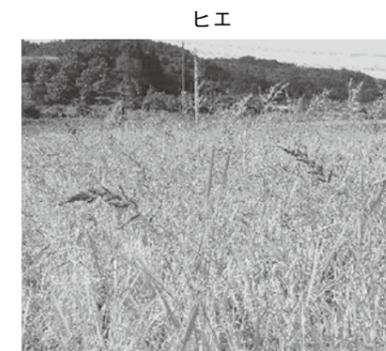


幼虫

- 成虫の体長4.6～6.0mm程度、若齢幼虫はアブラムシ大程度。
- 卵で越冬し、年3回孵化世代を繰り返す。
- ノビエ等のイネ科、ホタルイ等のカヤツリグサ科の穂に産卵する。
- 稲にはほとんど産卵しない。
- 水田内への侵入は寄生雑草の出穂時期に左右される。
- 8月下旬の登熟後半も割籾から玄米を溶かし吸汁できる。



成虫



ヒエ

ヒエ・ホタルイの穂はアカスジカスミカメの産卵する場所になります。
こうなる前に除草剤の適正使用を!!



ホタルイ

— お知らせ —

稲作GOGO運動セカンド 「稲作現地研修会」開催!!

- 兼業農家を対象にした、日曜日開催の「稲作現地研修会」
日 時：7月9日(日)予定
管内4会場に分けて開催
内 容：現地圃場での栄養診断（幼穂形成期の穂肥診断方法）
今後の病虫害対策（カメムシ防除等）
※詳細は、6月末の回覧でご確認ください。
- 支部単位での、「稲作現地研修会」
日 時：7月10～15日の予定（参加支部数により調整）
内 容：現地圃場での栄養診断（幼穂形成期の穂肥診断方法）
今後の病虫害対策（カメムシ防除等）
※取りまとめは、6月下旬におこないます。